

事業概要 【LINEを活用した行政情報配信システム等構築事業】

自治体名	北海道本別町	人口	6,190人	事業費	9,779千円
------	--------	----	--------	-----	---------

事業概要
 現在の広報誌やホームページによる一方通行の情報発信では、見落としがちであったり、まったく目にしない情報がある。また、自分が求めている情報を直接送ってほしい住民が少なくないことや、移動手段のない方や多忙な方々は役所に行く回数を減らしたいと考えている。これらの課題解決と住民ニーズに応えるために、LINE公式アカウントを導入し、地域コミュニケーションの活性化や地域情報の発信・共有、そして行政手続きの住民利便性向上を図る。

具体サービス

【情報配信サービス】

- ・利用者ニーズに合わせたメッセージのセグメント配信
- ・ゴミ収集日・子育て情報等の定期配信
- ・防災情報の配信
- ・チャットボット・個別チャットを用いたお問合せ対応

【動的リッチメニュー】

- ・欲しい情報にダイレクトにたどり着くリッチメニュー
- ・情報カテゴリごとにリッチメニューをタブ分け
- ・利用者ニーズに応じたメニューの出し分け

【通報システム】

- ・公共施設不具合・不法投棄等の通報をLINE上で受付

【予約システム】

- ・イベント参加、検診等の予約をLINE上で受付



主なKPI

【アウトプット指標（活動指標）】

- ①LINE公式アカウントお友だち登録者数
- ②LINE公式アカウント情報発信件数
- ③LINE公式アカウントによる通報件数
- ④LINE公式アカウントによるイベント参加等予約件数
- ⑤LINE公式アカウントによる広報誌のデジタル閲覧者数
- ⑥LINEによる動的リッチメニューの利用回数

【アウトカム指標（成果指標）】

- ①LINE公式アカウントによる情報発信の満足度
- ②LINEによる動的リッチメニューのコンバージョン数
- ③LINEによる通報システムでの通報への対応時間
- ④LINEによる予約機能でのイベント、検診等の参加者
- ⑤LINEによるチャットボット等を用いたお問合せ対応の満足度
- ⑥LINEによるメッセージのクリック率の分析

サービス概要 (1/1)

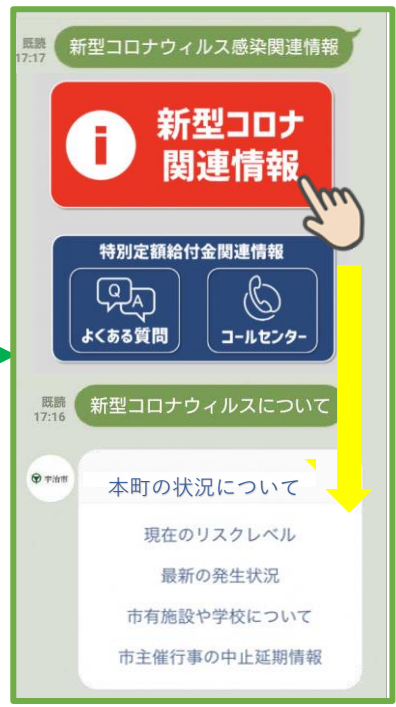
サービス名	LINEを活用した行政情報配信サービス	事業費	9,779千円
ターゲット	本別町LINE公式アカウント登録者（町内在住者、関係人口）		
サービス内容			

- 【情報配信サービス】**
- 利用者が希望するジャンルの情報のみをピンポイントで配信
 - 在住地区に応じたゴミ収集日リマインド配信
 - 子どもの生年月日に応じた予防接種、定期健診等の自動案内
 - 防災メールの内容をLINEメッセージで転送することで、メールを利用しない住民に対しても迅速かつ確実に防災情報を発信
- 〈情報ジャンル〉・町政情報、子ども・子育て、健康・医療、妊娠・出産・育児
障がい者支援、安心・安全、文化・芸術、イベント・催し
高齢者支援、公共交通、町議会・・・
- 〈利用者属性〉・居住地、男女、年齢、登録講座、社会保障、母子手帳・・・

- 【動的リッチメニュー】**
- 町公式ホームページでよく閲覧されるページへの導線確保することで、住民の情報アクセス性を向上
 - 利用者属性に応じたメニューの出し分けで個人ニーズに対応

- 【チャットボット、個別チャット】**
- LINE上でのチャットボット操作により、電話・来庁不要で、よくある質問をその場で解決
 - いじめ・ひきこもり相談等、電話で話しにくい相談をLINEのチャットで受け付けることにより、心の健康づくり、自殺対策を推進

- 【通報システム】**
- 公共施設不具合等の通報をLINE上で24時間365日自動受付
- 【予約システム】**
- 来庁・健診等の予約をLINE、WEB上で24時間365日自動受付



受信設定で欲しい情報を選択設定

【子育て情報を選択されている皆様へ】
子育て情報サイトにて1歳児向け定期健診の情報を更新しました
詳細を知りたい方は、下記よりご確認ください
<https://kanameto>

アンケートで取得した情報をもとに
欲しい情報だけを配信可能

事業概要 【GISを活用したWEBハザードマップ構築】

自治体名	北海道本別町	人口	6,190人	事業費	6,549千円
事業概要	<p>本別町の大雨災害時の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域（以下「危険区域」とします。）をWEBハザードマップとして公開することにより、紙媒体の防災マップを持っていない本別町民以外でもWEB上で危険区域を確認することを可能とし、特にスマートフォン、タブレット端末はGPSを捕捉し、現在地が危険区域内にあるかどうか瞬時に認知することができるようになります。さらに行政として保有する世帯情報、災害備蓄情報などをGIS化し、WEBハザードマップと関連付けることによって災害発生時において適宜行う判断の最適化を図ります。</p>				
具体サービス	<p>WEBサイトへのハザードマップ公表 本別町に在住していなくても、外出先であっても、WEBサイトを閲覧することによって本別町の危険区域を確認できます。</p> <p>災害情報の提供 災害時には通行止めや避難所開設などの情報をリアルタイムで発信し、マップ上に表示することによって、住民の的確な避難行動につなげます。</p> <p>防災関連情報の一元化 行政が保有する避難施設や防災備蓄庫、世帯単位の居住者などの情報をWEBハザードマップと重ね合わせ、災害発生時には開設する避難施設の選定、備蓄品の在庫管理、任意のエリア内の避難対象者数・要支援者数の把握などに活用します。</p>	<p>★WEBハザードマップの公開</p> <p>★GISの構築（情報管理）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世帯人数 ・道路 ・避難施設 ・備蓄庫 ・防災行政無線個別受信機 <p>★GISの公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難施設情報（定員、備蓄品） <p>など</p>	<p>災害発生時</p>	<p>住民</p> <p>WEBサイトにアクセスし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在地の安全確認をする ・最寄りの避難所を探す ・避難所の情報を知る ・避難経路の確認をする ・給水、充電スポットを探す <p>など</p>	<p>行政</p> <p>GISを用いて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難対象人数の把握 ・臨戸訪問による情報伝達必要世帯の把握 ・避難時要支援者の把握 <p>など</p>
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①WEBハザードマップの閲覧数</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①住民の避難所把握割合</p>			

サービス概要 (1/1)

サービス名	GISを活用したWEBハザードマップ構築	事業費	6,549千円
ターゲット	町民、来町者、町職員		
サービス内容			

本別町の大雨災害時の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域（以下「危険区域」とします。）をWEBで公開する。
 危険区域を確認することを可能とし、スマートフォン、タブレット端末はGPSを捕捉し、現在地が危険区域内にあるかどうか瞬時に認知、さらに様々な災害情報をリアルタイムで表示します。

WEBサイトへのハザードマップ公表

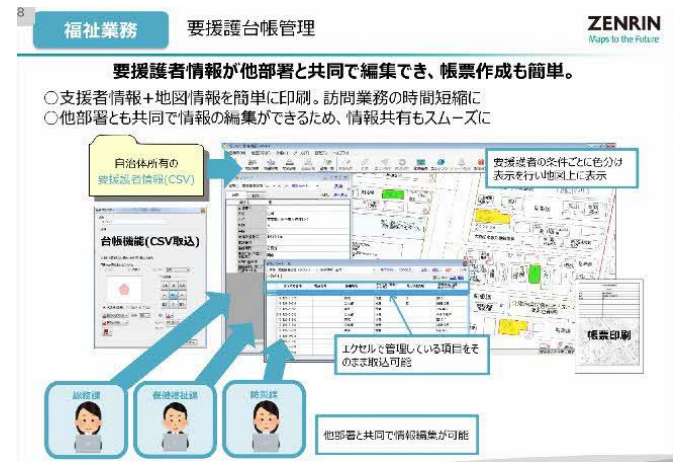
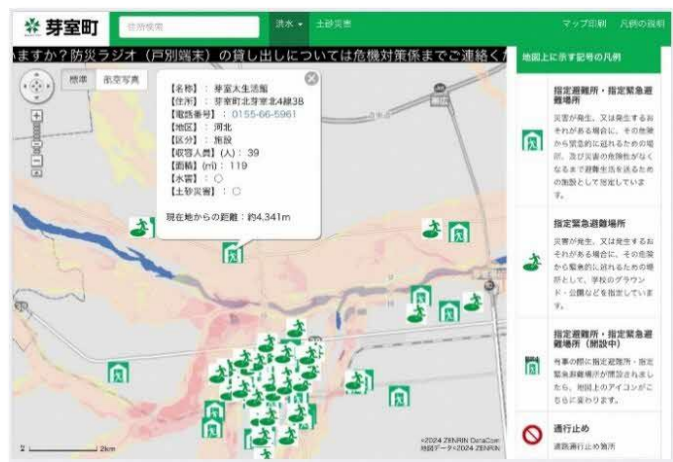
外出先であっても、WEBサイトを閲覧することによって本別町の危険区域を確認できます

災害情報の提供

災害時には通行止めや避難所開設などの情報をリアルタイムで発信し、マップ上に表示することによって、住民の的確な避難行動につなげます

防災関連情報の一元化

避難施設や防災備蓄庫、世帯単位の居住者などの情報をマップと重ね合わせ、開設する避難施設の選定、備蓄品の在庫管理、任意のエリア内の避難対象者数・要支援者数の把握などに活用します



事業概要 【人感センサー等を利用した高齢者等緊急通報システム見守り事業】

自治体名	北海道本別町	人口	6, 190人	事業費	2, 997千円
事業概要	<p>高齢者が安心して在宅生活を送れるよう、概ね65歳以上のひとり暮らし高齢者や見守りを必要とする高齢者世帯などを対象に、自宅へ緊急通報システムの人感センサーを設置し、24時間365日の見守りを行う。センサーの検知が無いなどの場合には、通報がコールセンターへ届き、オペレーターが高齢者へ確認の電話をし、緊急と判断したに時は登録されたご近所、親族、消防署などへ通知が送信される。また、高齢者本人が通報ボタンを押すこともできる。</p>				
具体サービス	<p>ひとり暮らしや見守りを必要とする高齢者・障がい者等を対象に自宅に人感センサー等を設置し、24時間365日の見守り支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 人感（空間）センサー自動緊急通報 人感（空間）センサーを居間等に設置。異常を検知すると自動的に通報。コールセンターから利用者宅に連絡し、必要に応じて家族や地域協力者へ連絡、緊急機関へ出動要請を行うとともに警備員がかけつける。 ■ 緊急通報装置・ペンダントによる緊急通報 緊急通報装置、またはペンダント型送信機の緊急ボタンを押すと、コールセンターに通報。（以下同） ■ 安否確認ボタン 食事や服薬、通院後など、日常生活の決まった行動時、利用者がボタンを押すことで安否を家族等にメールで知らせる。 ■ 相談ボタン（本機ボタン） 相談ボタンを押すと看護師資格を持つスタッフに24時間健康相談ができる。 		<p>イメージ図：ALSOK ホームページから引用</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①緊急通報を必要とする世帯における設置の割合 ②人感センサーによる通報件数 		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高齢者の安心感の向上 ②利用者サポート満足度 		

サービス概要 (1/1)

サービス名	人感センサー等を利用した高齢者等緊急通報システム見守り	事業費	2, 9 9 7千円
ターゲット	高齢者・障がい者等		
サービス内容			

ひとり暮らしや見守りを必要とする高齢者・障がい者等を対象に自宅に人感センサー等を設置し、24時間365日の見守り支援を行う。対象者は概ね65歳以上のひとり暮らし高齢者で、先に実施したアンケート調査から126世帯と推計、初年度設置は80%の101世帯を見込んでいる。

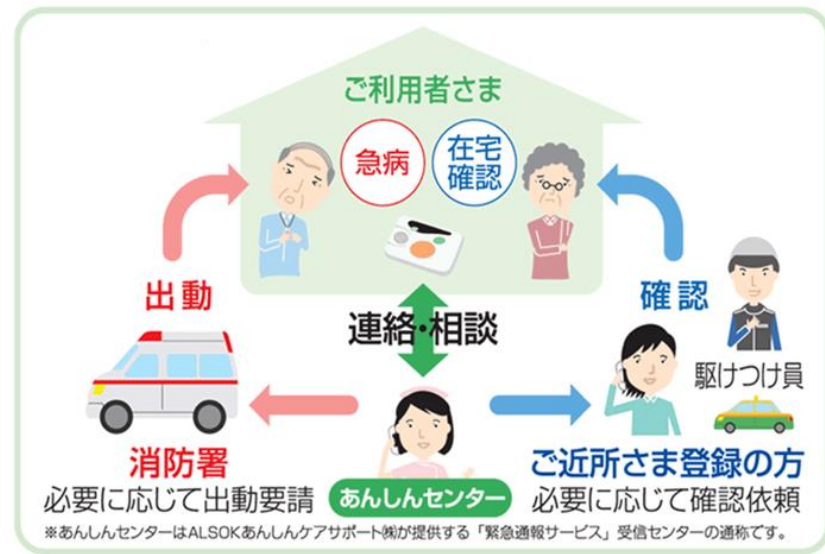
(アンケート調査：65歳以上の要支援・要介護認定者のうちひとり暮らし者数94世帯。アンケート回収率それぞれ91.1%、84.8%から126世帯が必要世帯と推計)

■ 人感（空間）センサー自動緊急通報

人感（空間）センサーを居間等に設置。異常を検知すると自動的に通報。コールセンターから利用者宅に連絡し、必要に応じて家族や地域協力者へ連絡、緊急機関へ出動要請を行うとともに警備員がかけつける。

■ 緊急通報装置・ペンダントによる緊急通報

緊急通報装置、またはペンダント型送信機の緊急ボタンを押すと、コールセンターに通報。利用者に状況確認を行い、必要に応じて家族や地域協力者への連絡や、緊急機関へ出動要請を行うとともに警備員がかけつける。ペンダント型は防水となっているので、浴室でも使用可能。



イメージ図：ALSOK ホームページより引用

事業概要 【個別最適化学習のためのAI型学習ドリルの導入】

自治体名	北海道本別町	人口	6,190人	事業費	3,417千円
------	--------	----	--------	-----	---------

事業概要	本事業では、町内小中学校における授業中の教材、宿題、家庭学習等への利用のためAI型学習ドリルを導入し、児童・生徒の学びを個別に最適化することを目指す。学習ドリルは、児童・生徒の学習状況に合わせて問題を出題し、適切な学習指導の実効を目的とする。
------	---

<p>具体サービス</p>	<p>AI型学習ドリルの導入により、学年や学習目標に合わせて提供される問題集が、基礎的な知識と問題解決能力の向上を支援</p> <p>学習状況と進度に応じて最適な問題や学習プランが提供され、AIは学習データを分析して誤答傾向や苦手な分野を把握し、それに基づいてカスタマイズされた問題集や学習指導を提供</p> <p>さらに、学習データの分析結果や正答率、学習時間などが可視化され、児童・生徒、保護者、教育者に提供</p> <p>これにより、学習の理解度や進捗状況を把握し、必要なサポートや指導を行うことが実現</p> <p>【AI型学習ドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校（全学年）～スマイルネクストドリル ・ 中学校（全学年）～eライブラリアドバンス <p>【対象科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校～国語、算数、理科、社会、英語 ・ 中学校～国語、数学、理科、社会、英語 保健体育、技術家庭、音楽、美術 	<p>スマイルネクスト（ドリル学習）小学校</p> <p>参考資料 JUST SYSTEMS スマイルネクストドリル学習</p>
---------------	--	--

主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①AIドリルの利用実績（家庭学習時間）</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①全国学力・学習状況調査における成績の向上</p> <p>②AI型学習ドリルの利用満足度</p>
-------	--	--

サービス概要 (1/1)

サービス名	AI型学習ドリル導入	事業費	3,417千円
ターゲット	小中学校児童生徒		
サービス内容			

【AI型学習ドリル】

小学校（全学年）～スマイルネクストドリル
 中学校（全学年）～eライブラリアドバンス

【対象科目】

小学校～国語、算数、理科、社会、英語
 中学校～国語、数学、理科、社会、英語、保健体育、技術家庭
 音楽、美術

AI型学習ドリルでは、解答が不正解だった場合に、苦手分野や関連する過去に習った項目を自動的に抽出し、各々の学習状況に応じて学び直しができるため、児童生徒の発達段階に応じた個別最適な学習が可能となり、一律的な学習によって取り残される子どもをなくし、学力の底上げを図る。

また、教職員がAI型学習ドリルを活用して課題を指定することができ、得意不得意分野の把握及び課題の進捗状況の確認等ができるため、個別の学習指導や児童生徒の学習習慣の定着を図る。

参考資料 JUST SYSTEMS スマイルネクストドリル学習

